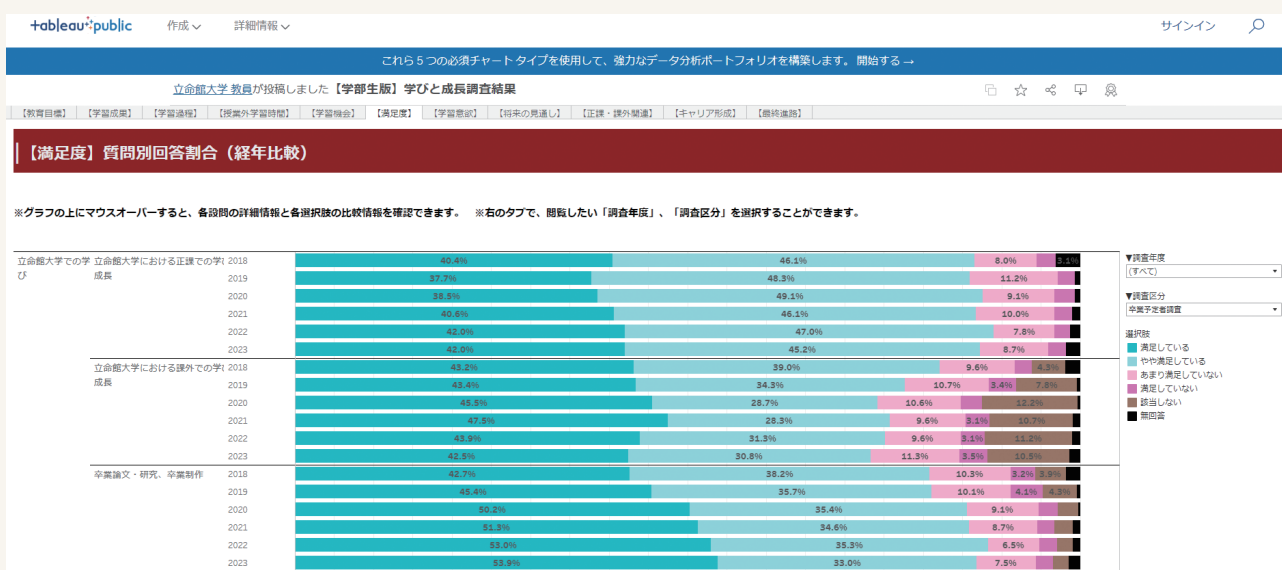


学びと成長レポート Vol.7

『学びと成長調査』集計結果の Tableau での公開について



1. はじめに

立命館大学では、学部生および大学院生を対象に学習到達度や学習経験等の学びを振り返る機会として、2015年度より(※大学院生版は2021年度より)「学びと成長調査」を実施しています。これまで本調査結果を活用して大学の教育改善に役立ててきました。

主に学生の皆さんへの学びと成長調査結果のフィードバックは、一部の結果をピックアップして学びと成長レポートとして、教育・学修支援センターのホームページを通じて公開しているものの、すべての結果の公開はしておらず、特に回答頂いている学生の皆さんと大学との間では、情報の非対称性が発生していました。

そこで2024年度より学部生版・大学院版のそれぞれ経年でのすべての結果を大学ホームページで公開することになりました。今回は「学びと成長調査」の全体結果の公開と2024年度結果サマリーについて紹介します。

2. 情報公開のツールについて

今回、2024年度より公開する「学びと成長調査」の全体結果は、Tableau（タブロー）というBIツールを活用して結果を可視化し公開します。BIツールとは、組織が持つデータを分析・可視化して、経営判断や業務に役立てるソフトウェアで、ビジネスの意思決定に関わる情報提供を支援するツールのことです。

Tableauの機能の1つであるTableau Publicというデータ共有・公開のプラットフォームを活用して、Tableauで可視化した「学びと成長調査」の結果データを公開しています。Tableauを用いることで、視覚的に理解しやすい形で結果を確認できるようになります。具体的には、これまで公開していた学びと成長レポートはPDF形式でしたが、PDF形式ではグラフは固定された静的な表示に限られ、データの詳細確認や動的な操作ができません。一方、Tableauを活用することで、インタラクティブなグラフの作成が可能となり、学生の皆さんをはじめとする閲覧者はフィルタリングやドリルダウンを通じてデータの細部まで閲覧者の見たい視点でデータを探ることができます。

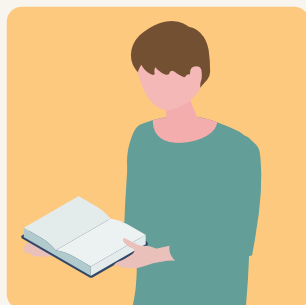
3. 公開場所について

「学びと成長調査」の全体結果は、立命館大学における教学関連のデータが公開されている、[大学評価・IR室のホームページ](#)上で公開しています。以下の3つの該当のアイコンをクリックして全体結果を閲覧することができます。（※PCでの閲覧推奨）また、これまで発行してきた「学びと成長レポート」も公開されていますので、合わせてご覧ください。

○「学びと成長調査」結果の公開場所



○学部生版



↑ 閲覧はコチラをクリック

○大学院生版



↑ 閲覧はコチラをクリック

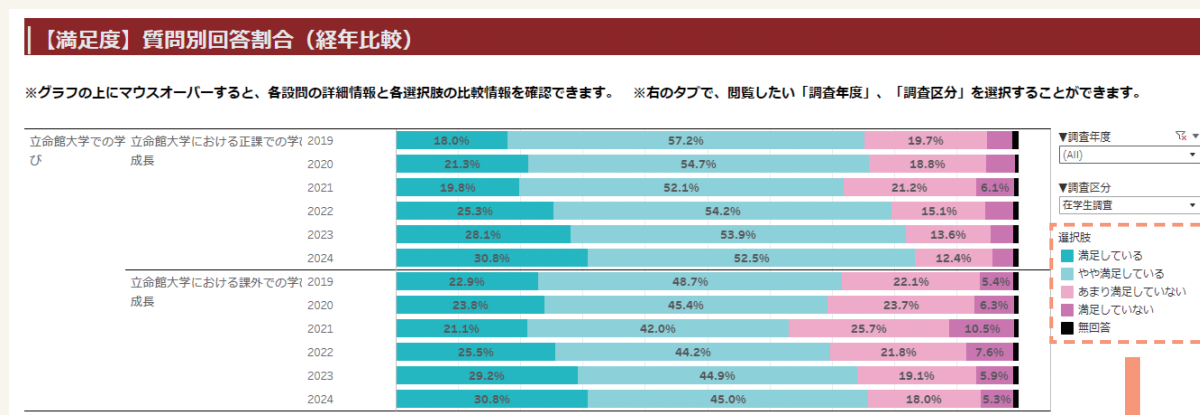
○これまでに発行された 学びと成長レポート



↑ 閲覧はコチラをクリック

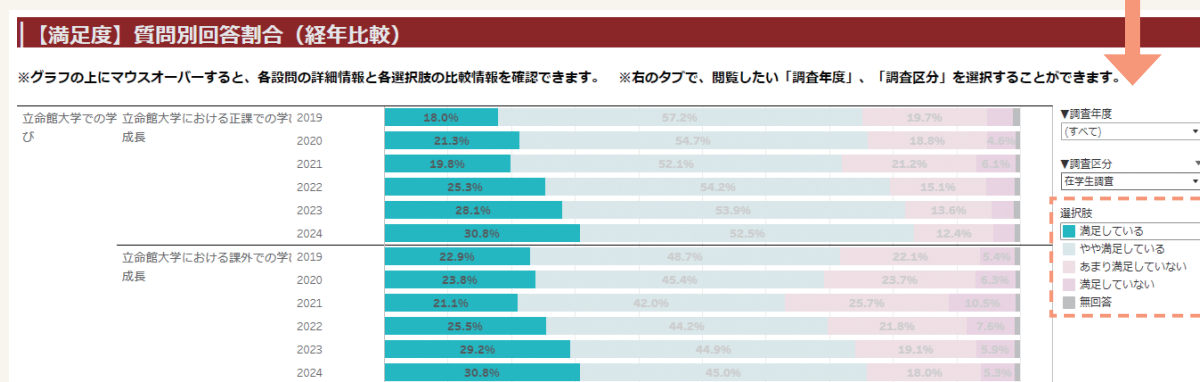
選択前

選択肢を何も選択していない状態です。



選択後

「満足している」を選択すると、選択した「満足している」の回答のみがハイライトで表示されます。



5. 2024年度 結果のサマリー

2024年度「学びと成長調査」の結果のうち、特にコロナ禍前後の特徴のある全学的な傾向やポイントをご紹介します。

1. 正課での学びと成長に対する満足度

在学生調査における「正課での学びと成長に満足している」との回答割合は、コロナ禍前の2019年度と比較して、「満足している」、「やや満足している」と満足している割合は75.2%から83.3%と高い水準を示しました。コロナ禍の影響で一時的に低下した満足度が、対面授業の復活やメディア授業の質の向上に関する取り組みにより、改善されていることが分かります。

2. 課外活動での学びに対する満足度

「課外活動での学びと成長に満足している」と回答した学生は、コロナ禍中の2021年度に一時的に減少しましたが、その後回復し、「満足している」、「やや満足している」の数値は2024年度には75.8%と高い水準を取り戻しました。これは、対面活動の再開や新たな課外活動の形態(オンラインサークル活動やリモートボランティアなど)が学生のニーズに応じて拡充された結果と考えられます。



正課および課外での学びと成長に関する満足度

↑ 閲覧はコチラをクリック

3. 学びに対する意欲

「正課での学びに意欲がある(「意欲がある」、「やや意欲がある」の合計)」と回答は、2024年度には88.5%とこれまでの調査で最も高い数値を示しました。コロナ禍において学びの機会が制限される中で、学生の皆さんが自主的に学びを継続する意欲を示したことが伺えます。また、「課外での学びに意欲がある」と回答も80.5%と正課での学びに意欲があると同様にこれまでの調査で最も高い数値と、コロナ禍以前を超える意欲を示しています。これもコロナ禍における課外活動機会の制限の反動だと考えられます。



正課および課外での学びへの意欲

↑ 閲覧はコチラをクリック

4. オンライン授業の影響

コロナ禍よりメディア授業が主流となった結果、学生の情報リテラシーやコンピュータリテラシーが向上し、これにより「情報を収集し、分析する力」や「デジタルツールを活用して学ぶ力」が飛躍的に向上しました。例えば、「コンピュータを用いて文書や発表資料を作成できる(「あてはまる」と回答)」と回答した学生の割合は、2019年度(26.6%)と2024年度(39.7%)とを比較すると13.1ポイント上昇しており、メディア授業におけるリモート環境下でのスキルの向上が見られました。



【学習成果】「コンピュータ&情報」に関する習得状況

↑ 閲覧はコチラをクリック

5. 専門分野の知識と技能の習得

コロナ禍の影響で実習や実験が制限されたにもかかわらず、「専門分野の知識や技能を活用することができる(「あてはまる」「ややあてはまる」と回答)」と感じている学生の割合は2019年度から増加し2024年度は60.8%となりました。これは、メディア授業関連ツールの整備やメディア授業支援など、学習機会の工夫と拡充を進めた結果と考えられます。



【学習成果】「専門的素養」に関する習得状況

↑ 閲覧はコチラをクリック

総じて、2024年度の結果は、大学や学生の皆さんがコロナ禍による困難を乗り越え、皆さんが学びに対して前向きな姿勢を取り戻しつつあることを示しており、大学としても皆さんの前向きな姿勢に応えられるように、大学の教育における改革・改善を進めていきます。

6. さいごに

皆さんの学びに対する意識や経験、成長を理解し、さらなる成長と学びの支援を目指すためにアンケートを実施しています。これまではアンケート結果を皆さんにはすべて公開できていませんでしたが、すべてのアンケート結果の公開を通じて、皆さんが大学全体の学びと成長調査の結果を確認することで、ご自身の成長に役立てていただければと思います。

更に、皆さんが学びと成長調査に回答頂くことで、皆さんの学びに対する意識や経験、成長を理解し、大学の教学の改善・改革にも反映され、より良い教育環境の提供につながります。今後も調査を継続して実施しますので、皆さんのご協力をお願い申し上げます。



立命館大学

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

発行日：2025年2月 編集・発行：立命館大学 教学部教学推進課